

川崎病の全国疫学調査成績

—第11回全国調査およびサーベイランス—

柳川 洋、中村好一、屋代真弓

川崎富作* 大川澄男**

要約：1970年以来10回の川崎病全国調査が実施され、1988年12月までに発生した患者94,330名が把握されている。今回1989年1月から1990年の2年間の患者を対象に第11回の全国調査を実施した。また、川崎病の流行がおきた場合に迅速に対応するための資料を提供することを目的としたサーベイランスを1984年1月以来実施し、現在のところ1990年末までの7年間の成績がまとまったので、その成績を示した。

今後とも継続的に患者発生情報を収集して川崎病の疫学像を把握する予定である。

見出し語：川崎病、全国調査、疫学、流行、サーベイランス

【目的】

1970年以来10回の川崎病全国調査が実施され、1988年12月までに発生した患者94,330名が把握されている。また、川崎病の流行を迅速把握する目的でサーベイランスを実施し、1990年末までの成績がまとまったので、概要を示す^{1, 2, 3)}。

【方法】

1. 全国疫学調査

第11回川崎病全国調査は1989年1月～1990年12月の2年間に小児科を併設する100床以上の病院を受診した川崎病初診患者を対象とした。今回はこの外に100床未満であっても小児科を標榜する専門病院も対象に加えた。調査項目は患者に

ついては、住所、氏名、性、生年月日、初診年月日、初診時病日、診断の確実度、薬剤使用（ステロイド、抗生物質、アスピリン、γグロブリン）、再発、同胞例、死亡、心後遺症、心エコーの実施など、施設に関しては、ベッド数、小児科医師数、エコー検査および冠動脈造影実施状況などである。

2. サーベイランス

川崎病の発生状況を迅速に把握するために、2年ごとの全国調査の外に144施設の協力を得て毎月の性別、上中下旬別受診患者数の報告を依頼し、毎月7日までに前月の患者数を葉書で報告してもらい、パソコンでデータ処理を行い、25日に前月までの成績を協力施設に報告している。

自治医科大学公衆衛生学教室 (Department of Public Health, Jichi Medical School)

* 川崎病研究情報センター (Kawasaki Disease Research Information Center)

** 日赤医療センター小児科 (Department of Pediatrics, Japan Red Cross Medical Center)

【成績】

1. 第11回全国調査

1990年12月末に上記の対象医療機関に調査票の発送を行った。調査票提出期限(1991年2月中旬)以降に再依頼状を発送し、回答率をできるだけ高くして、患者集計、施設集計を行う予定である。

2. サーベイランス

図1は1990年12月までの7年間に報告された患者数を性別、上中下旬別にみたものであり、男女共に同じ様な推移を示し、一部の例外を除き大部分の月で男が女を上回っている。表1は7年間の患者数15,168人(1991年1月18日現在)を月別にまとめたものである。1985年11月～1986年4月に大きな流行があり、7年間の月平均患者数180人に比べて、1985年11月に1.8倍、1986年2月には4.0倍まで増加し、以後減少した。以来すでに5年経過しているが新しい流行はみられない。

川崎病全国調査と本サーベイランスの成績の両方が得られる1984年1月～1988年12月の5年間について月別患者数の推移をみると、図2に示すよ

うにサーベイランスによる報告数を3倍したものと全国調査の報告数がよく一致する。このことからサーベイランスによって毎月わが国でどの位の患者が発生しているかが推定できる。現在全国調査が進行中の1989年、1990年の推定患者数は、それぞれ5,300人、4,600人となる。

これまでに3回にわたり3～4年の間隔で全国的な流行がみられたので、1991年も注意深く患者発生状況を観察する必要がある。

【文献】

1. 柳川洋、屋代真弓、中村好一、麻生誠二郎、今田義夫、川崎富作、重松逸造：川崎病サーベイランス成績、3年間のまとめ、日本医事新報、1987;32～82:3234.

2. 柳川洋、中村好一、藤田委由、永井正規、麻生誠二郎、今田義夫、川崎富作：サーベイランスによる川崎病患者発生数の推定、日小会誌、1988;92:1754～1759.

3. 厚生省川崎病研究班：第10回川崎病全国調査成績、小児科、1990;31:569～576.

図1 月別(上中下旬別)患者報告数の推移

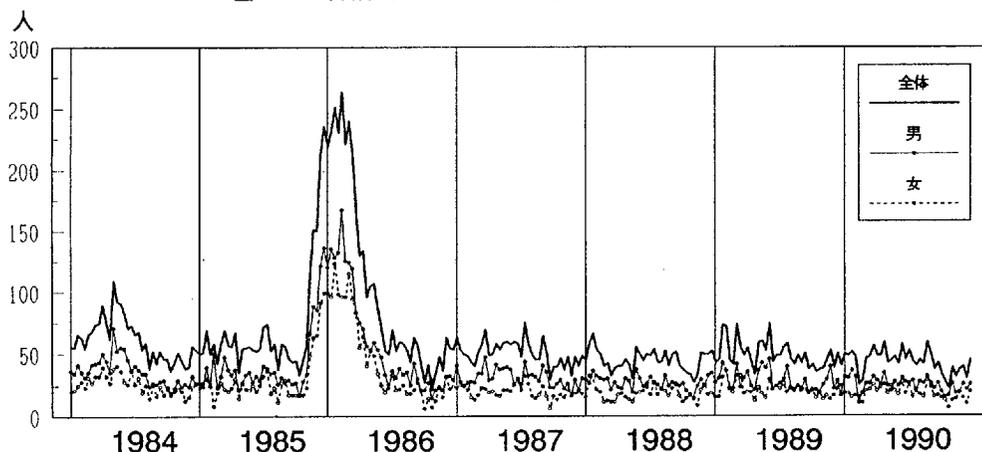
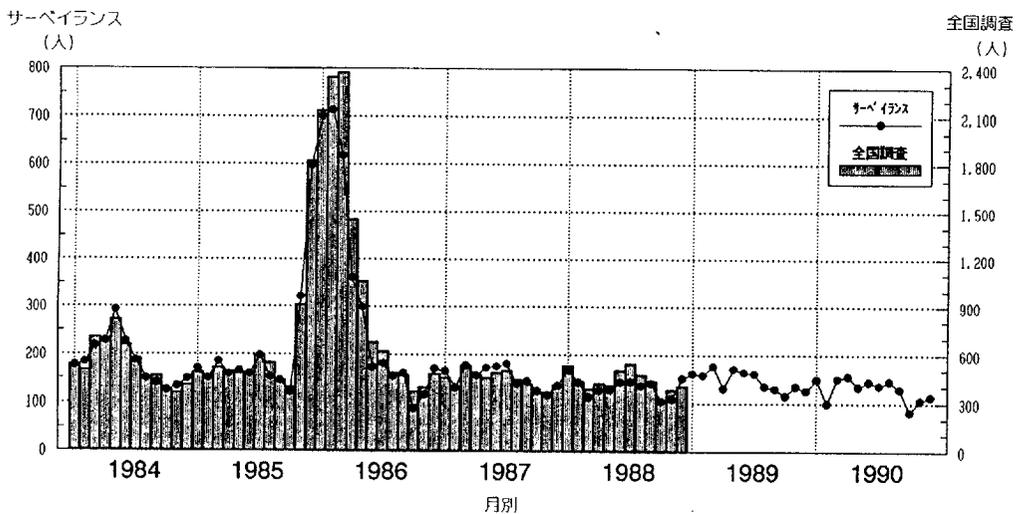


表1 サーベイランスによる月別患者報告数

1990年1月18日現在

	合計	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
	15,168	2,204	2,523	3,736	1,814	1,596	1,759	1,536
1月	1,689	177	170	701	165	168	160	148
2月	1,577	183	150	714	131	142	157	100
3月	1,634	217	185	618	177	112	176	149
4月	1,311	227	158	360	156	125	130	155
5月	1,358	292	165	299	172	126	171	133
6月	1,183	226	159	173	175	142	165	143
7月	1,185	187	198	181	180	143	161	135
8月	1,008	149	153	154	139	135	134	144
9月	987	140	145	161	144	140	129	128
10月	759	125	122	89	124	104	113	82
11月	1,036	133	321	116	116	109	135	106
12月	1,441	148	597	170	135	150	128	113

図2 月別患者報告数の推移（サーベイランスと全国調査）





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1970 年以来 10 回の川崎病全国調査が実施され、1988 年 12 月までに発生した患者 94,330 名が把握されている。今回 1989 年 1 月から 1990 年の 2 年間の患者を対象に第 11 回の全国調査を実施した。また、川崎病の流行がおきた場合に迅速に対応するための資料を提供することを目的としたサーベイランスを 1984 年 1 月以来実施し、現在のところ 1990 年末までの 7 年間の成績がまとまったので、その成績を示した。

今後とも継続的に患者発生情報を収集して川崎病の疫学像を把握する予定である。